

## 刊行にあたって

法政大学沖縄文化研究所（以下、沖文研）は、沖縄の施政権が米国から日本に返還された一九七二年に創立され、二〇二二年に創立五〇周年を迎えました。このたび、研究所創立五〇周年記念事業の一環として『法政大学沖縄文化研究所蔵 琉球関係史料目録』を刊行する運びとなりました。

当研究所は創立以来、琉球・沖縄関係の史料収集に努めてまいりました。なかでも、一九七〇年代に収蔵された「赤木文庫」（横山重琉球関係史料）と「楚南家文書」、そして来歴など不明な点が多い「琉球古文書」の各コレクションは、その希少性からみても、前近代の琉球研究にとって大変貴重な史料群といえることができます。これまで長い年月をかけてこれらの貴重文献の保存・修復に取り組んできましたが、整理・登録作業が段階的に行われてきたため、図書館OPACなどに登録されている史料はあるものの、統一的な目録が存在しておらず、各コレクションの全容や構成を把握することが難しい状況が続いていました。また、貴重な史料群にもかかわらず、オフィシャルな目録が刊行されていなかったため、研究者一般に広く認知されていたとも言えず、利便性の面からも史料を活用しやすくするための目録作成が求められていたと思われまます。

そこで、二〇二一年一月から、沖文研兼任所員の渡辺美季氏に全体のとりまとめ役を担っていただき、目録作成へ向けての企画を練り、同年八月に「沖文研所蔵琉球史料の基礎的研究」プロジェクトを立ち上げ、沖文研国内研究員である高津孝氏、豊見山和行氏、麻生伸一氏に編集・執筆メンバーに加わっていただきました。（各氏の肩書きについては巻末に記載）。二〇二二年五月以降は、沖文研所蔵史料の閲覧整備など、編集実務を綱川恵美氏（沖文研専門嘱託）が担当し、具体的に目録作成作業に取り組み始めました。全体で二〇〇点以上におよぶ史料について、目録作成としては大変短期間の作業であったにもかかわらず、多大なご尽力をいただいた渡辺氏をはじめとする編集メンバーの皆様には心より感謝申し上げます。

本目録は、①「横山重関係史料」、②「楚南家文書」、③「他種史料」という三つの項目を立て、各コレクションの性

質に応じた目録を作成し、それぞれに通番を付しました。これにより、これまで複数の整理番号が存在し、利用者にとって便をおかけしていた点の改善が見込まれます。また、これまで不明な点が多かった史料群の全体像、来歴、歴史的な位置づけなどについても、各コレクションに関する「解説」において詳しく説明がなされています。

①「横山重関係史料」については、今回の調査により、「赤木文庫」と「琉球古文書」に一定の関連性が認められたことから、両コレクションを合わせて「横山重関係史料」として目録を作成することとしました。この点も含めた同コレクションの解説は渡辺氏にご執筆いただきました。また、各史料の解説については、編集メンバーの諸氏に分担執筆いただき、『琉球史料総目録』の解説については、輝広志氏（一般財団法人美ら島財団）にご協力を賜りました。

そして大変有難いことに、目録編集作業中に、横山學氏（ノートルダム清心女子大学名誉教授）から横山重旧蔵の『中山世譜』『中山世譜附巻』をご寄贈いただけることになり、この貴重史料も「横山重関係史料」に加えることができました。横山學氏には史料の来歴などに関する特別寄稿もご執筆いただきました。重ねてお礼申し上げます。

このほか、写本史料の来歴を解明することがプロジェクトの目的のひとつでしたが、この点に関しては、沖縄県教育委員会の野村直美氏、外間みどり氏、漢那敬子氏のほか、「球陽研究会」の関係者である糸数兼治氏、富島壯英氏、また、南城市教育委員会・同図書館の諸氏にもご協力いただきました。これら関係各位のお力添えにより「横山重関係史料」写本史料の系統について明らかになった点は、一覧表にまとめられ、本目録に掲載されています。

②「楚南家文書」については、史料全体の解説および史料解題の大部分を高津氏にご執筆いただきました。高津氏は、一九九四年に『琉球列島宗教関係資料漢籍目録』を共同編纂され、その中に「楚南家文書」に関する目録も収録されていましたが、当時の「楚南家文書」は破損・虫害などがひどく、多くの史料が閲覧できる状態ではありませんでした。その後、史料の修復が進められたことで、現在は全ての史料を閲覧することが可能になり、今回、「楚南家文書」目録を大幅に改訂していただくことができました。また、史料解題の執筆には途中から王尊龍氏にも参加していただき、主に対清外交に関わる漢文行政文書について担当していただきました。

今回のプロジェクトを開始する直前に、「楚南家文書」をご寄贈下さった楚南菊枝氏の養子でいらっしやる楚南晟夫氏から偶然、沖文研にご連絡をいただきました。長らく交流が途絶えてしまっていた楚南家の方々と思いがけず連絡が

取れるようになったことで、本目録に掲載した楚南家の系図についてもご協力を賜りました。研究所に貴重な史料をご寄贈いただいたから目録の完成まで長い時が経ってしまいましたが、楚南家の方々にあらためて感謝の意を表したいと思います。

沖文研には、所蔵コレクションとして把握されていた「赤木文庫」「琉球古文書資料」「楚南家文書」の他に、未整理・未登録の十数点の琉球関係史料が所蔵されていることが目録作成過程で明らかになりました。そこで本目録では、これを③「他種史料」という項目をたて収録することにしました。この中に数点含まれていた「薩琉軍記」関係の諸本に関する解説については目黒将史氏（県立広島大学准教授）にご執筆いただきました。

琉球史に関する史料は「沖繩戦」の戦禍によってほとんどの貴重文献が失われ、また、様々な経緯から「本土」に移されていた史料の多くも、震災や空襲などの被害を受けて焼失してしまっています。このような歴史を鑑みた時、本目録に収録した史料群には沖文研への所蔵に至るまで、それぞれに焼失、散逸を逃れ生き残ってきたドラマがあります。沖文研は、横山重氏や楚南家の方々が残して下さった「宝」を次世代に引き継いでいく責務を負っており、その意味で、研究所創立五〇周年の事業として『法政大学沖繩文化研究所蔵 琉球関係史料目録』の刊行に至ったのは、歴代の所長および関係者の取り組みの積み重ねがようやく結実したということもできます。

本目録の刊行により、多くの方々に沖文研が所蔵する琉球関係史料を活用していただき、琉球史の研究が一層進展していくことを切に願っております。最後に、これまでお名前を列挙しました、目録作成に関わって下さった全ての方々にあらためて心より感謝申し上げます。

二〇二三年三月

大里 知子（法政大学沖繩文化研究所専任所員）